

# までいな家の1年をたどる



までいな暮らし普及センター（通称：までいな家）は昨年4月24日の開所からもうすぐ1年を迎えようとしています。今回はまでいな家のこれまでの取り組みを振り返ります。

## 春

最新のエコ技術普及を指して「までいな家開所」

平成22年4月24日に開所したまでいな家。までいな家は居住空間の熱を逃がさない（外部との温度差の小さい）「低炭素型田園ライフ」を体感できるエコハウスとして開所しました。

までいな家は、

- ① 21世紀環境共生型住宅（エコハウス）の普及
- ② 環境学習の場の提供
- ③ 村外との交流活動の推進を目的に設置されました。

ツバチの生態の背景にある自然循環を整えることの大切さを学びました。



▲までいな暮らし創造塾のようす

## 夏

半農半Xの暮らしを発信する場として「企業研修を受け入れ」

半農半X（はんのうはんエックス）の暮らしとは、半分は農業、残りの半分はほかの好きな仕事をしながら暮ら



▲村の暮らしを学んだ研修参加者

そうという考え方です。昨年7月、東京の株オールアバウトの社員をまでいな家に受け入れました。

までいな家では、エコハウスを学ぶ場や半農半X的な暮らしを体験する場を提供する目的で体験宿泊の受け入れにも取り組んでいます。

研修で、村の「までいなライフ」や地域資源を学んだ参加者は、までいな暮らしや環境に配慮した住まいに直接触れることで農村への関心が高まったようすです。

## 秋

「村内外との交流の場として」までいな庭とピザ窯づくりワークショップ

までいな家では月に1回の頻度でワークショップを開催しています。

ワークショップは、環境学習や軽作業を通じて参加者らが互いに交流を深めることを目的としています。

9月に行われたまでいな庭とピザ窯づくりのワークショップでは、県内外から30人が参加し、窯作り、庭造りを体験し交流を深めました。

## 冬

「快適な居住空間を学ぶ場として」やさしくエコな住宅断熱勉強会

2月5日には断熱住宅の勉強会を開催しました。

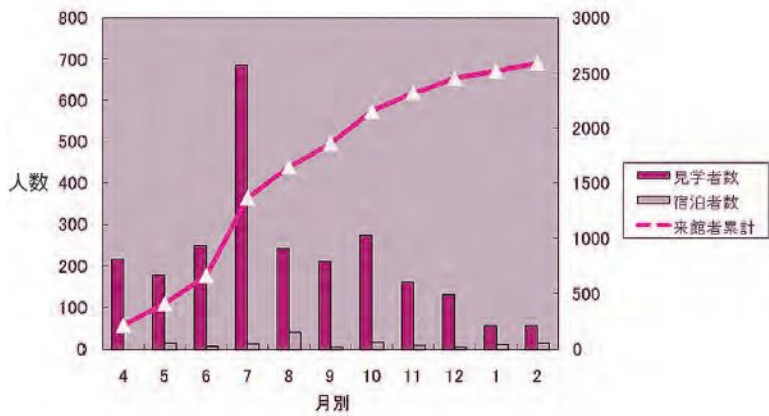
勉強会では、までいな家の設計者で豊田設計事務所長の豊田善幸さんが寒冷地の家づくりに大切な窓選びや家をリフォームする際の注意点について説明しました。

住宅の新築やリフォームの相談窓口としての役割もまでいな家の重要な活動です。



▲勉強会のようす

## までいな家の見学者・体験宿泊者



2月25日現在、見学者 2,456 人体験宿泊者 138 人がまでいな家を訪れています。

7月はエコビレッジフェスティバルの来場者も含まれていますが平均すると月に220人ほどの見学者がまでいな家を訪れ、月に約12人が宿泊体験していることとなります。



▲ワークショップでピザ窯をつくる参加者

勉強会では、までいな家の設計者で豊田設計事務所長の豊田善幸さんが寒冷地の家づくりに大切な窓選びや家をリフォームする際の注意点について説明しました。

住宅の新築やリフォームの相談窓口としての役割もまでいな家の重要な活動です。

までいな家のこれまでとこれから

近年、地球温暖化防止の観点や化石エネルギーの枯渇など新たな課題から、住宅の新築、リフォームにおける省エネ設計、自然エネルギーの積極的な活用が重要視されています。

開所以来、自然との共生のかたちを提案するエコハウスの普及、環境学習や自然エネルギー学習の場の提供に努めてきました。

新年度に向けて見学者、宿泊体験者の受け入れ、環境共生のワークショップ、勉強会などを通じて「エコ建築」や「エコ活動」の普及啓発と、人と人との交流の場を提供し、「までいな暮らし」という人にも環境にもやさしいライフスタイルを更に推進します。

また、新たに「環境寺子屋事業」を計画していますが、この事業では多くの子どもたちが村の風土に根ざしたライフスタイルを学習できるよう、自然観察や野外体験のプログラムを展開します。